

自然の中でのびのびと
親子3人のんびり暮らす



「旬の野菜をもらうこともあり、ご近所さんには感謝しています」と千鶴さん。子どもができて、つながりはいっそう強まった。過疎化の進む田舎では、小さな子どもは「地域の宝」と人気者だ。生き物や自然に触れ、その大切さがわかる子どもになってほしいと願う。



すべるように川面をスイスイ
安定感があって初心者でも安心

春(3~5月)は、名所の一枚岩などを巡る5時間半の1日コース、夏(6~9月)は、3時間の半日コースを午前と午後の2回実施。家族連れや子どもも多い。安全対策のヘルメットとライフジャケットを身に着けて、いざ清流へ。

川坊主
住所 / 東牟婁郡古座川町月野瀬881-1ばたん荘内
電話 / 080-2509-4649
<http://www.kawaboze.com>

川下りの合間に箱めがねを使って水中を観察。アユやウグイ、ハゼ類などの魚からカニやエビまで、古座川の清流には生き物がいっぱい。子どもたちが大喜ぶする体験だ。



わかやまでの日々の暮らしとまちブラ日記



川辺には奇岩、巨岩がいたるところに見られる。火山や浸食が独特の風景を生み出した。



高さ100メートル、幅500メートルの巨大な一枚岩。は古座川のシンボル。



山あいをおだやかに流れる川は、カヌーでの川下りにぴったりだ。ゆったりと自然を満喫できる。



切れ込んだ岩の間を流れる「滝の祥」。カヌーで来ることもあるとか。



古座川の河口から上流方向を眺める。



クリスタル・リバーと呼ばれる古座川の透き通った青い水。

奇岩奇石と美しい古座川の流れ。それだけでワクワクします



「のんびりしたいときによく来ます」という「滝の祥」は、日本ジオパーク認定の南紀熊野ジオパークを構成するジオサイトの1つ。ポットホールと呼ばれる無数の穴がシュール。

受け入れ施策 Come on!

和歌山県では移住者をサポートするため、多彩な支援制度を整備している。40歳未満の若年移住者への奨励金(最大250万円/世帯)のほか、移住後に新たに起業をする人を対象にした移住者起業補助金(最大100万円)、空き家改修補助(最大80万円)なども。移住希望者を対象にした現地体験も定期的に行っている。詳しくは <https://www.wakayamagurashi.jp/how-to/support/>



東牟婁郡古座川町
谷哲也さん
TETSUYA TANI
大阪から移住

シーズン中は午前6時起きで、夕方までガイドをして、それから翌日の準備という多忙な毎日。体験者の満足度は高くリピーターも増えてきた。太平太君を抱く奥様の千鶴さんもガイドを行う。

美しく澄んだ川を追い求めて
カヌーで自然の魅力伝えたい

本州最南端の清流と呼ばれる古座川。緑の山あいを流れる水面を、青いカヌーが滑るように進む。「ダッキー」と呼ばれる空気膨張式のカヌーで、軽やかに漂うように川を下っていく。

「カヌーの仕事がしたい。そんな思いで、各地の川を巡るうちに、たどり着いたのが古座川でした」。ダッキーでの川下り、アウトドア体験をガイドする川坊主の代表、谷哲也さんは話す。哲也さんの半生は、常に川とともにあった。大学の探検部時代、ラフティング(急流下り)に出会い一度は企業に就職したが「川で働きたい」と退社。京都府の保津川でラフティング、高知県の四万十川でカヌーなどのガイドを経験。妻の千鶴さんとも保津川のガイド時代に知り合ったという。

転職が訪れたのは2009年。緊急雇用に応募し、古座観光協会に



集合場所になっている「月の瀬温泉 ばたん荘前」で長男の太平太君とともに。旅館のすぐ目の前を古座川が流れ、ダッキーが目的地で遠方からやってくる宿泊客も多い。



住まいの裏の田んぼでカエル探し。バッタにも興味津々。

来たとき、クリスタル・リバーと呼ばれる古座川にすっかり魅せられた。「すぐくゆるやかで、水がきれい」。それまでは急流一辺倒だったが、「多くの人に、もっとのんびりと川の魅力に触れてもらいたい」と思うようになった。目を付けたのが、初心者でも比較的操縦が簡単なダッキーで、3年間の準備を経て起業した。「いくつかの候補地があったのですが、美しい自然に恵まれ、夫婦の出身地である大阪に近いことも決め手になりました」。

2015年には長男、太平太君も誕生、3人での生活が始まった。現在、3~9月にガイドをし、シーズンオフは近所の農作業を手伝って生計を立てる。「収支とんとんですが、少人数密着の今のスタイルを守り続けたい」と哲也さん。「古座川がきれいであるかぎり、ここに住み続けたい」と2人は話した。